



団だより

涼 やかな風とともに、また新しい一年が始まります。夏のキャンプを年間活動のハイライトと位置付けている本団では、秋が新しい年度のスタートラインです。

昨年度は、折り返し地点の3月に東日本大震災が発生しました。新年度の始まりに当たるこの9月現在、震災の犠牲となられた方々の数は15,000名を超え、行方不明者は未だに4,000名を数えます。被災地では、なお多くの方々が仮設住宅等での不自由な生活を余儀なくされています。申すまでもなく今回の大震災は、戦後最大の自然災害として歴史に刻まれる、文字通りの「国難」であると云えましょう。

本団関係でも、ご親戚や知人が被災されたという方がいらっしゃいます。また、スカウトたちの学校生活や各ご家庭、保護者の皆様のお仕事など、身近な生活の様々な場面で、例外なく何らかの影響があったことと思います。

発災の直後、本団では幼いビーバースカウトやカブスカウトたちが主力となって街頭に立ち、被災地への支援金の募金活動に従事しました。ボーイ隊の有志は、市内の福祉団体との交流プログラムを通して、避難生活での工夫を学び防災意識を高めました。また、年長部門であるベンチャー隊では、恒例の夏季遠征を振り替えてスカウトと指導者が直接宮城県に赴き、野営生活を送りながら酷暑の中で実際に泥かきなどの奉仕活動に携わり、被災地の厳しい現実を肌身で体感しました。これ等の活動を通じてスカウトたちは、大震災をより身近な現実として認識する機会を持っています。

私たち一人ひとりに出来ることは、被害の甚大さの前に実に小さく、限られたものかも知れません。しかし、スカウトたちが、被災地の方々を心で添わせ、平素の活動における「自己へのつとめ」で身に付けた精神と技能を活かして、「他者へのつとめ」を果たすべく出来ることから実際に行動することの意義は



ボランティアとして奉仕活動に参加した山下ベンチャースカウト(宮城県亘理町にて)

可能性を信じて

団委員長 **當麻洋一**

決して小さくありません。何故ならば、今現在のスカウト世代こそが、将来、この未曾有の国難を乗り越えた私たちの社会に、本当の意味での豊かさをもたらす、真の「復興」の担い手となるからです。

「人間は一人では非力であっても、ともに心を結び、手を携える仲間がいる限り、必ず困難は克服できる」という実体験を幼い時から積み重ねたスカウトたちは、必ずや、個人としても社会の成員としても、常に可能性を信じて力強く人生を切り拓いて行ける真の「人間力」を身に着けた「よりよき社会人」に成長してくれることでしょう。

様々なプログラムの体験を通して、人としての優しさや勇気を養い、仲間と力を合わせて自ら行動することを学ぶスカウティングが、今ほど伝統ある社会教育運動としての真価を問われている時はないと考えます。新年度も本団は、スカウト一人ひとりの成長のために、身近な小さな活動を丁寧に着実に積み重ねて参ります。

イキイキと活動するスカウトたちの明るい笑顔の中に、この国の未来への大きな可能性が息づいています。その笑顔のために、団に関わる成人の皆様には、引き続き更なるお力添えをお願い申し上げます。

BWS

ビーバー隊

楽しかったキャンプ

◎日時：2010年8月21日
◎場所：西丹沢・大滝キャンプ場

ぼくは、キャンプファイヤーと川あそびがたのしかったです。まず、川あそびのダムづくりがたのしかったです。つぎに、キャンプファイヤーでは、『しんかんせんはうんとはやい』がたのしかったです。カブでも行きたいです。

中村甲一朗

今回1つの区切りを迎え、ビーバーの隊長・仲間から離れ、次年度からカブ隊に入隊させて頂くこととなりました。お世話になった2年半を振り

返ると隊としてもメンバーが増えたり、個人としても変化が沢山あったと思います。何か具体的な成長をあげられると良いのですが、はっきりと申し上げることができません。でも、目には見えない何か、本人の中に育っているのではないかと信じます。

【中村園子】

ぼくは、ビーバースカウト(スカウト)にはいって、はじめてキャンプにきました。キャンプに行くときは、どきどきしました。でも、いったら大きなたきを見られたし、川であそぶのも……たのしかったです。またキャンプに行きたいです。

高橋寛人

どこへ行くのでも、常に親と一緒に後ろにくっついてた寛人でした。2月に入隊し活動を重ねる度に、だんだん自分だけで行ってみたい、やってみてみたい、と思うようになってきたようです。初めてのキャンプは都合により途中まで一人で活動に参加することになったと決まった時は、不安より期待の方が大きかった様子がわかりました。帰り道では、ずっと出来事を話してくれていました。その瞳はきれいだったなあと感じました。スカウトに入隊したのは、当たり前でなかなか伝えられないマナーやルール、いろんな人との触れ合いによって、相手の気持ちを考えられるようになってほしい、という思いがありました。勉強ではなくいろいろな物事について「知っている」事は、きっと自信や自立につながってくると思っています。また大袈裟かも知れませんが、生きていく上でこれらの経験はどこかで活(い)きてくると考えてもいます。この価値がわかる時がいつかきてくれる

のを期待します。「げんきにあそぶ」「ものをたいせつにする」「よいことをする」。簡単なようで難しいのかもしれない。でも一つひとつ、みんなで出来たらいいなあと思っています。これからもご指導を宜しくお願いします。

【高橋禎江】

キャンプの川遊びが楽しかった。

入内島もも

子供に期待していることは、スカウトの活動を通して、集団行動(生活)に慣れてくれることです。社会奉仕をして、人の役に立つことを学んで欲しいと思います。

【入内島太郎】



『川遊び』と、キャンプファイヤーを囲んでの『俺は大蛇。強い大蛇……』のゲームがとても楽しかった。

大矢貴一

キャンプ後もこの歌をよく歌っています。上級スカウト達との交流の中で一番リラックスして心を開けたのだと思います。私も同じく、楽しかった

こと1つに絞ってあげるのなら、デイキャンプです。やはり一番はキャンプファイヤーなのですがそれは貴一に譲り、私は『大滝への散策』です。スリリングな箇所がいくつかあってオテンパ心をくすぐられ、到着してみるとなかなか立派な景色とマイナスイオンに包まれて皆で喜んだことが忘れられません。子供達のはしゃぎようもキラキラ光っていました。

【大矢貴子】

夏の村のキャンプファイアで、ボーイ隊のスタンツが面白かった。

高田 廉

どうも活動に行っても勝手に一人で遊んでいるようで……(きっとリーダーにもご迷惑をおかけしておりますが)仲間と一緒に何かに取り組める様になって欲しいです。

【高田篤人】

キャンプで、かわらで拾った石に絵を描いたことがとっ~ても楽しかった♪

井上留美音

子供はまだまだお世話になるばかり……。親はいろいろ学ぶ事多し。で毎回とても楽しませてもらっています!!これからもヨロシクお願いします☆

【井上】

今まで1番楽しかったことは、キャンプ中の川遊びです。

石原翔太

私が団に期待している事は、子供達がこの人みたいになりたい!と思える男性リーダー(うちは男の子なので)がいてくれるといいな~と思

ます。遊ぶ時はめっちゃ楽しく遊ぶけど、やる時は惚れ惚れする位やる、みたいなメリハリのある団になると素敵ですね。

【石原藤乃】

もう一度
やってみたい体験は、
『地震体験』です。

大箭明日香

煙や日を消したり、非常時の体験が楽しかったというはおかしな表現ですが、心に残っているようです。一人っ子で温室育ちと言われないよう、アグレッシブに生き抜く力を養って欲しいと願うばかりです。生きる力育む体験を沢山学び、成長してくれることを期待しています。

【大箭美紀】



6月5日、総合防災センターで地震体験をしました



9月11日に行われたカントリー大作戦

消火器をしたのが
楽しかった。
ゴミ拾いは
打ち上げ花火のゴミが
たくさん落ちていた。
ラーメンをもらった。
家で食べて
美味しかった。

作山耕平

いつも企画を考えて下さって息子は毎回楽しみにしています。まだビーバースカウトですがスカウト活動を通じて好きなこと、得意なことを見つけてくれたらと思っています。将来は〈そなえよつねに〉の精神を持って人のためになることを出来る大人になってほしいものです。

【作山真樹子】

魚釣りをして
釣った魚を食べたい

井上陽翔

私は、「仲間の大切さ」を知ってほしいと思います。

【井上奈美】

じしんたいけんで、
ゆれるところが
たのしかったです。
カブでは、ひみつきち
をつくりたいです。

野口真人

毎回さまざまな体験をさせていた
だいております。本人も、とても
熱があっても「絶対に休みたくない！」
と言うほど楽しみにしています。

【野口紀子】

ゴミ拾いが
1番楽しかったです。
台風で海のゴミが
たくさん浜に上がって、
ビニール袋いっぱい
集めることが
できました。

鈴木大和

学校や家庭では体験できない事
をボーイスカウトで体験して成長
していってくれるといいなと思います。

【鈴木紀子】

スカウト活動に期待すること

大矢貴子

主人はイベント参加が多い中、
どんぐりの手作りクッキーと
落花生収穫後、茹でて食べた
ことが良かったようです。どちらも食
べることが共通なので、きっと満足感
が強かったのでしょう。我家では、食
事の際『(命を)いただきます』という気
持ちは心がけています。息子には、『自
分を生かすために多くのものの命をもち
らっている→生かされている→何のため
に?を意識して欲しいと思います』取
穫・狩猟→調理→食事』を許される範
囲で経験を積ませたいと思っています
ので、とても良い経験をさせていた
だきました。

最近、弟妹を待ち焦がれる中、貴一
の中で『お兄ちゃん意識』が少しずつ
芽生えてきているように感じています。
上級生との交流は小学校でもあります

が、ボーイスカウトでの他隊との交流は
特に良い刺激をもらっているように思
います。今後の交流の中で、貴一の日
標となる上級スカウトを見つけ、活動中
でも個人的に話したり、またカリキュ
ラムに2人組んで活動する機会があつ
たら……。尚一層、憧れ意識、向上意
識が強まるかと期待しています。

楽しさ+α=スカウティング

ビーバー隊長 守田智恵

それぞれの個性がキラキラして
元気で頼もしいスカウト達。
そして、みんなを温かく支え
ている保護者の皆様。楽しい! にプ
ラスαがあるから、スカウティングの意
味がある。そんな活動をしていきます。

キャンプの思い出

◎日時：2010年8月20日～22日
◎場所：西丹沢・大滝キャンプ場

夏の村キャンプの思い出

隊長 新井克基

今回は、夏の村としてオール5
団のキャンプとなった。

カブ隊は大船駅に集合し、背負った大きなリックにフラフラしながらも、何とかキャンプ場にたどり着いた。キャンプ場に近づくにつれ空の色が暗く心配もあったが雨までには至らず、おぼけトンネルと騒ぐ周辺探索も盛り上がった。帰村後は3チームに別れチームワークを發揮したイカダを製作。多様なイカダデザインと発想に驚かされた。

二日目からは雨に住み着かれたが、幸にも活動中は小雨ですみ、イカダレース、ラリー、キャンプファイアと自然の中で活動することができた。

振り返ると物足りない3日間かと思っていたが、3日目のスカウトの声を聞き、スカウトにも多少なりとも思い出が残せたのではないかなと思う。

この場をかり、スカウトの皆に詫びなければならぬ事があります。少人数指導者での運営と大震災の影響もあり年間活動回数が少なくなったことが残念です。

また、この1年間活動を進められたことに、保護者の皆様、リーダーの皆様、団関係者の皆様、ご支援ありがとうございました。

平成23年度夏の村キャンプの感想

副長 浦山和久

今年の夏の村は二泊三日の行程のところ、私は一泊だけとフルに参加出来ず、新井隊長をサポートし切れなかったことを申し訳なく思います。

また、団委員、保護者の皆さんの厚い奉仕のお陰で、無事に夏の村を過ごせたことに対し、深く感謝申し上げます。

今年のカブ隊は、おとなしめのスカウトが多く、キャンプで元気ハツラツ行動出来るか、ちょっと心配でしたが、大丈夫、よく統率が取れ、まとまって元気にいたと思います。

陽気はやや涼しく、川に入ってイカダ



レースをしたときは、正直肌寒く感じられましたが、通して過ごしやすくキャンプ日和だったといえるでしょう。ですが、キャンプファイヤーのときのスタンツ、桃太郎で観衆に「寒い」思いをさせてしまった犯人は、ネタのオチを考えました私です。

他にイカダ作りを手伝っていたときも、スカウトが作っているのを見るに見兼ねて、半分手を出したりと、スカウトの自主性を育む邪魔者だったかもしれません。

今年度のカブスカウトのメンバーとも、もうじきお別れ。来年度もまた一緒にカブ隊メンバーとして活動するスカウトもいれば、上進して新たな一歩を踏み出すスカウトもいます。

どうか、一年間、少しの時間だったかもしれないけど、心の隅に一緒にいたときの思い出をとっておいてください。副長も皆と過ごせて楽しかった。ありがとうございました。

2011 カブ隊キャンプ

デンリーダー 笹沼武志

2011年の夏キャンプは、雨が降ったりやんだりの大滝キャンプ場2泊3日でした。

キャンプ初体験のスカウトも多かったのですが、食事、着替え、荷物の整理、時間通りの起床など、みなそれぞれ自分のことをしっかり出来ていて頼もしく感じました。

一日目は、ハイキングといかだ作り。二日目は、ものすごく冷たい川に自製のいかだを浮かべていかだレースでホットに盛り上がりました。午後には、ビーバー軍団が到着、ボーイ、カブ、ビー

バーの縦割り3チームで仲良くゲーム。夜には、待ちに待ったキャンプファイア。火の粉を巻き上げる大きな炎を全員で囲んで、それぞれのスタントや歌を楽しみました。

DLとしてスカウトの後を追っかけているだけの、あつという間の1年間でしたが、スカウト達の成長は目を見張るものがあります。1年前と比べ、すっかり体力もつき、仲間との行動もずとうまくできるようになりました。来年のキャンプの頃には、心身ともにさらにビッグになっていることでしょう。楽しみだなあ。



キャンプの思い出 笠原剛綺

八月二十日に大船駅に集合して東海道線で国府津でおりました。ごてん場線で「谷が」でおりました。浦山副長の車に乗って大滝キャンプ場まで行きました。その日は、ほうき杉を見に行きました。高さ四十五メートルのほう

き杉は、遠くからでも、見えました。桃太郎のげきをそこで、練習しました。キャンプ場に帰ってからいかだを作りました。

次の日は、昨日、作ったいかだで遊びました。いかだレースをして一回だけ一位をとりました。その次に、くまスカウトだけでボーイ隊のいる所へ行きました。旗は、午後五時に下げるといっていました。ボーイスカウトは、いろいろな工夫をしていました。帰りに石を拾いました。

次の日は、ボーイ隊たちとラリーをやりました。夜は、くま3人で火をつけて歌ったりおどったりしました。

大滝キャンプ 笹沼 薫

八月二十日土曜日に大滝キャンプ場に行きました。メンバーは高田、宮井、笠原、たき、酒井とぼくの六人でした。

一日目は、いかだを作ったりほうき杉を見に行きました。

二日目は、川に行って一日目に作ったいかだに乗ってレースをしたり、ボーイ隊のテントに行ったり、団でラリーをしてゆうしょうしたり、キャンプファイアーをして初めてキャンプファイアーの火をつけました。

三日目は、部屋の整理をしました。次に作文を書いてしおりにも日記を書いて石に絵を書きます。

楽しいキャンプになりました。

大滝キャンプ場の感想 瀧 壮馬

一日目は車で行って、ついでからこんなに森があるなと思って、びっくりしました。

次に小屋の十八番に入った時は、けっこう広いなあと、思いました。次にほうきすぎに行った時は、外から見た時は、とびぬけて、すごいなあと思いました。中に入った時は、予想外に小さいなあと思いました。次にいかだを作った時は、百パーセント自しんがあつて、レースにもかかると思いました。次によ

るめしを食べて時は、予想以上にごうかだなと思いました。

二日目の時は、まずイカダであそんだ時は、うまくつよきくといきがあいませんでした。次にラリーをした時は、さいしょは一位をとれそうと、思いましたが、と中からやっちゃったと言う場面もあつて、けっかは残ねんながら、三位でした。

次にキャンプファイアーの時は、初めて火をつけました。

キャンプ場の思い出 宮井としか

ここ、大滝キャンプ場とは、今日でおわかれです。それまで3日間どんな生活をおくったのでしょうか。

一日目キャンプ場から、ほうきすぎまで行きました。そこで、げきのれんしゅうをしました。帰ってきたらいかだをつくりました。

二日目は午前中に川あそびをして、夜にキャンプファイアーをやりました。そこでげきをやりました。げき名は、ももたろうです。ももたろうをげんだいふうに見ました。

三日目の日は、帰る日です。この日は、屋にかし切りバスにのって帰ります。

三日間楽しかったです。



楽しかったキャンプ 高田愛麻

わたしは八月二十日土曜日から八月二十二日まで神奈川けんの山北市の大滝キャンプ場で、カブのキャンプをしました。

まず一日目は、近くの「ほうき杉」という杉を見に行きました。この杉は高さ四十五メートルで、日本の天ねん記ねん物に入っています。夕がたいかだを作りました。すこしつらかったです。

二日目はきのう作ったいかだであそびました。雨のふったあとだったから、川の水がすぐくつめたかったです。それでいかだのレースをしました。わたしはとしくといっしょにいかだをこぎました。わたしたちは一回目が二位、二回目と三回目が三位でした。とてもざんねんだったです。夕がたに、ビーバー、ボーイ、カブでラリーをしてあそびました。さいごのゲームでとしくの頭とわたしのほっぺがぶつかりました。とってもいたかったです。夜七時からキャンプファイアーをしました。ビーバーとボーイは、アブラハムのかえ歌をひろうしました。カブは、ももたろうをやりました。ほかに色々な歌を歌いました。

三日目は、きのうの屋にひろった石に絵をかきます。帰りはかし切りバスに乗って帰ります。

キャンプファイアーが一ばん楽しかったです。また来年が楽しみです。

キャンプの思い出 酒井 諒

この大滝キャンプ場に来たのは8月20日です。

さいしょの日はほうきすぎを見に行きました。ほうきすぎは、すごく大きかったです。キャンプ場からほうきすぎのところまでそんなにおくありませんでした。屋ごはんを食べたところはほうきすぎの近くで食べました。

夜ごはんはキャンプ場で食べました。このときのゆう食はカレーでした。カレーはすごくおいしかったです。ねるときはそんなにねれませんでした。

つぎの日はいかだを作りました。いかだを作るときはすぐたいへんでした。

木をきったりひもで木をむすんだりしました。やっとできて、つぎの日にいかだをうごかしました。水にうかんでさいしょにいかだレースをしました。いかだレースで2しょう1ばいでした。いかだはバランスをとらないといけませんでした。

次にいかだあそびがおわってそのあとにいかだをぶんかいしました。そのよるキャンプファイアーをやりました。キャンプファイアーのときはすぐながかったです。キャンプファイアーのときにげきをしました。

そしてそのよるねて今日になりました。キャンプはたのしかったです。

夏キャンプを終えて

◎日時：2011年8月18日～22日
◎場所：西丹沢・大滝キャンプ場

平和が一番なキャンプ 木村海生

も ちつきや、訓練キャンプ、ウェルカムキャンプのときにキャンプをすると、毎回いやな思いをした。けれど、今年のキャンプは去年よりも楽しく、問題だったのは雨だけで、平和でよかった。

平和と思う理由は二つある。

一つ目は、時間。今年も時間におくられたりしてのばしてもらったりしたが、ねる時間にはおくれないうでシュラフの中に入れたし、睡眠時間も長く、次の日に疲れが残らなかった。去年は設営に時間をかけすぎてしまい、調理する時間も減って、まともな食事があまりできなかったが、今年は食事に影響がなくなかったと思う。

二つ目は、とてもうまく料理ができたこと。いつものキャンプでは必ず失敗するが、今年はトラブルなくできた。二日目の夕食の肉じゃがは雨の中つくったのに、晴れた日に料理したときよりもおいしくできた。ボーイのキャンプで一番おいしかった。自分でみその量を調整してつくったみそ汁もうまくいってよかった。カレーやチーズのくんせいもとてもうまくいき、今年のキャンプの料理は失敗したことがなく、とてもよかった。

時間厳守で、料理もすべてうまくいくことは、本当はあたりまえかもしれないけど、僕にはあたりまえではないから、今回のキャンプはとても楽しく平和だとすごく感じた。来年も今年みたいなキャンプを先ばいたちがいなくなっても絶対にやり、平和で楽しいキャンプにしたいと思う。



安定したキャンプ 守田 渉

僕 は今までのボーイスカウトのキャンプの中で、このキャンプが一番安定していて、楽しいキャンプでした。

大滝キャンプ場に到着した時、4泊5日もここで生活、大丈夫かな……、天候は崩れないかな……、と不安な気持ちがつづいていました。僕はキャンプで不安なところが二つありました。

一つ目は天候です。前の夏キャンプでテントを組み立てている時にいきなり大雨になってしまい、テントの中は水たまりで、テントの中から水を出す作業をして、大変でした。

そして二つ目は、調理です。なぜなら、僕は前の夏キャンプや、他のキャンプでもよく料理を失敗して、おいしい料理は出来なかったからです。

でもこのキャンプでは、初日に雨は降らず、テントをしつたり建てられて寝れま

した。米もしっかり炊けて、おいしい料理を食べる事ができました。僕はこんなにうまくいったのは、リードしてくれた班長・次長のおかげでもあり、自分が勉強してきたからだと思います。班長・次長は雨が降っても火をつけ、調理してくれたり、「明日雨だからまき拾ってきて」と明日に備えて呼びかけたりしてくれました。そして自分で達成感があるのは、米の水の量と「紅茶でかんばい」です。米の水の量は家で、手のどれくらいかを調べて来たら、あまり失敗せずにできて、達成感がありました。そして「紅茶でかんばい」では、火を早くつけられて、一番早く終わる事ができました。その時は自分も少しづつ出来ているということを感じ、うれしかったです。

次のキャンプでは、自分で早く火をつけ、おいしい料理をつくれるようになります。

一年を振り返って

4年間の活動 木村航洋

あ っという間に過ぎてしまったボーイスカウトでの4年間。この4年間は僕にとってとても大切な活動だったと思う。

すべて隊長や副長に任せてばっかだったカブ隊から、限界までは自分達の力で活動するボーイ隊に上がった。初めはまったくついていけず、ただのお荷物だった1年目。やっと仕事ができるよ

うった2年目。自立心ができ始めた3年目。自分が次長になり色々なことに挑戦した4年目。

4年間で2級しかとれなかったが、自分の精神が入ったときよりは強くなっていると思う。この4年間は、自分を強くし、自分で考えることを教えてくれたような気がした。楽しい活動ができるように、上進してもがんばりたい。

楽しかった富士登山 小瀬村友太

ぼ くが一年間をふりかえて一番よかったのは、富士山に登れたことでした。なぜなら富士山は日本一高いからです。

行った日は7月16～17日です。まず午前8時15分に集合して大船から一時間で御殿場につき、そこからバスでまた一時間で富士山五合目につきました。登るスカウトは、ぼくと守田渉スカウトとカブスカウトの笹沼スカウトの3人です。大人はぼくのお父さんの他に6人、合計10人で登りました。

五合目にはまだ緑がありました。そしてすばしり口から登りました。二時間くらいたった長田山荘という山荘につきました。あまりつかれませんでした。それから山荘の人といっしょに森の中を歩きました。森の中は沢がありました。でもそこには水が流れていませんでした。でも春になると雪どけ水が流れます。それから秋になるとまつたけがとれるそうです。帰り道さがしたけどみつかりませんでした。

富士山は日がしずむのが早いので、すぐ暗くなります。なので7時30分にはふとんに入りました。でもぜんぜんぬれませんでした。なぜなら次の日がたのしみだからです。

次の日、午前3時30分におきて4時に登り始めました。20分ほどたって「ごらいこう」を見ました。とてもきれいでした。

八合目ほどになると、夏なのに雪がありました。そこが一番つらい所でした。でもそこをこえると楽になりました。

そしてやっと山頂につきました。そこで「おはつまわり」をして、下山しました。下山はとてもすべるので楽しかったです。とてもつかれたけど、楽しかったです。

隊キャンプの思いで 川村英貴

ぼ くはあんまりさんかしてないけど、さんかしたなかで一番楽しかったのは、4月16日から4月17日にあった隊キャンプです。備品庫からキャンプ場までキスリングをもって歩くのは、とてもきつかったです。

キャンプ場について、テントをたてるときとてもあつかったし、難しかったけど、楽しかったです。テントの入り口に船のさきのような物があって、これはなにかなーと思ってたら、隊長が、それは雨がふった時にテントに水が入らないようにするためにある、と言っていたので、テントはずいぶんーと思いました。友達の竜ノ介君もきていたので、とても楽しかったです。

立ちかまどを作るとき、竹と竹をたこひ

1年をふりかえて 川村亮太

ぼ くはこの1年のボーイスカウトの活動をふり返って思ったことは、あまり活動にでれなかったことです。

ぼくはボーイスカウトのほかに空手を習っています。それに中学生になって、部活動や勉強などたいへんなことが小学校にくらべてたくさん増えてしまったのです。ほかのみんなも同じだと思うのですが、どうしても両立するのが難しく、どうしてもボーイスカウトの活動を休んでしまいがちです。

だからこれからはもっと活動にせっきよく的にさんかし、ボーイスカウトと空手や部活動を両立していきたいです。



ボーイ隊

平成23年度夏期遠征 復興に学ぶ

◎日時：2011年7月23日～27日
◎場所：宮城県亶理町を中心に、宮城県の沿岸部被災地
◎報告・プログラム運営：山下 耕

目的

状況の変化に柔軟に対応しながら東日本大震災からの復興に協力する。

被害や復興の現状ならびに避難所・ボランティアセンターの運営状況を調査する。

ボランティア活動で力を合わせて被災者の生活再建を手助けするとともに被害状況を肌で知る。

調査・活動したことをもとにレポートを作成する。団および家族内にて報告会を開き、防災について考えを深める。

目標

車で移動しながら被害と復興の状況を調査・記録する。

被災地にてボランティアとして奉仕活動に参加する。

日程

7.23 sat

7:00 大船駅出発(土田副長・山下)
8:30 東京・護国寺着。三浦隊長合流
14:30 亶理町ボランティアセンター到着
15:00 設営
16:30 周辺調査と買い出し
22:00 就寝

7.24 sun

8:00 野営地を車で出発
12:00 碓石浜着
13:30 昼食(気仙沼)
歌津、南三陸、石巻を調査
18:00 サイト着

7.25 mon

8:20 野営地発
8:30 ボランティア受付
9:30 奉仕開始(床下泥出)
15:00 奉仕終了
15:30 野営地着

7.26 tue

8:20 野営地発
8:30 ボランティア受付
9:30 奉仕開始(床下泥出)
15:00 奉仕終了
15:30 野営地着

7.27 wed

8:20 一部撤出し出発
8:30 写真洗浄のボランティア
12:30 奉仕終了
16:00 撤営完了 出発
24:00 大船着 解散



ベンチャー隊



陸前高田市のアパート



打ち上げられた船。元浜町にて

評価

広範囲を調査し実情をつぶさに見ることができて大変よかった。津波の被害状況には衝撃を受けた。

自分の眼で見て体を動かして活動することで、テレビや新聞とはまったく異質で自身に響くものを得た。これから先この体験が大いに生きるものと思う。

プログラム以前の幕営部分は設備環境が整っていたので申し分ない生活が送れた。

ボランティアの作業にはすぐ慣れた。実体験を通して得るものは非常に多く、意義深い体験となった。周囲のボランティア、住民の方との交流もできよかった。

少人数での活動であったがVC組織でのプログラムということもあり充実した内容だった。

報告会もぜひ成功させたい。

反省

被害状況に驚嘆して写真を撮るばかりで、具体的な数値情報などを調査しなかった。それによって客観的な評価が難しくなってしまった。

ボランティア活動を行えたのが2日半という短い期間だった。

周囲との交流が少なかった。

目標に掲げたものに対し、踏み込んだ調査が不十分であった。

まず、沿岸部の津波被災状況について地図との正確な対応や量的なデータを得られていない。これは行政機関などへの取材が必要であった。また、ボランティアセンターにおいても取材ができていない。滞在時間の短さや機会の逸失が原因であると思う。職員の方々は非常に多忙そうであった。

今思えば、計画を立てたときに思い上がりがなかっただろうか。「私たちは貴重な『調査』に行くのだから当然取材させてもらえるだろう」という思考があった。終わってみて実感するが、この素人調査は所詮「見物」に毛が生えた程度のものである。被災者の方たちの感情も考えたとき、私たちの行動はミーハー的だったのではないかと。

感想

百聞は一見に如かず。言葉で失う光景であった。概括すると、目に付いた被害というのは津波によるものであった。

南三陸町では、ただコンクリートの原野となり人影のない町の先に崩れた橋と海があった。海岸から2キロほどまで建物がないのだ。あるいは道沿いに山のように積み上げられた木材・鉄骨・車だったもの。これらは津波で流されたもので、町一面に散らばっていたものを4ヶ月かけ回収し集積したものだ。車を降りて近くに寄ってみると腐臭を発しながら圧倒的な存在感で持つて聳えていた。その中によく見ると賞状や縫いぐるみなどがあってやるせない気持ちになった。

その町ごとに被害の状況は違い、片付けの具合も大分違っていてもわかった。個人的には南三陸町のあまりにすっきりと何もない様と、気仙沼市街の廃墟がともに心に残った。ただ、現地入りする前に私が誤解していたように町のあらゆる部分が消滅してしまっただけではない。浸水しなかった地域・わずかであった地域では普段とまったく変わらない日常があり賑やかさがあつた。さすがに4ヶ月も経ったのである。

だからこそ、あの何もなくなくなった光景がよりいっそう悲しく見えた。

ボランティア活動の作業初日、続々とボランティアセンターに人が集まり出発していく姿をみて、その効率のよさに驚いた。頼もしい集団であった。

床下泥出しはかなりの重労働だった。9時から15時までの活動でへとへとだった。

「復興」などと氣勢のいい言葉を吐いて向かったのに、現実ではこの作業の先を信じる気持ちは持ち難かった。家主の夫婦の心境を考えるとただ頑張るだけだった。

2日間、のべ25人の手を掛けておおかたの泥出しは終わったとき言いようもない達成感があり、感謝していただいた。やってよかった。

3日目の写真洗浄は前2日とはまったく違う世界だったが、これはこれで心に残るものがあった。

作業場の横に洗浄済みの写真や物品の展示場があり、この日も失くした写真を探す人がいた。そして来訪した人がコメントを残して行ったノートを読んだ。歓喜の言葉、感謝の言葉に心を動かされ思わず涙ぐんだ。

復興とは、がれきと泥を取り去り前へ前へと進んで行くことだけではなく過去の思い出を丁寧に掬い取っていくことでもあるのだなと思った。



亶理町のボランティアセンター-外観



ボランティアセンターの内部



テントを設営したのは、ボランティアセンター隣の「町民の広場」。大混雑でやっとな場所を確保。少し傾斜地……

八戸祐樹スカウトが富士章を 守田なつみスカウトが菊章を 受賞しました



8月13日、深沢行政センターにて富士章と菊章の認証授与式が行われました

「菊章」は誰にでも取れます◎守田なつみ

私にとって今年はボーイ隊としての最後の1年でした。思い返してみれば、部活に専念していたので、あまり活動に頻繁に出席することができず、後輩スカウトに自分が修得してきた技能を教えることができなかつたと思います。ターゲットバッジなどもやれば取得できるころはたくさんあったとも思います。

私がボーイ隊になって一番嬉しかったことは、「菊章」に進級したことです。「菊章」に進級するのは「難しい」と考えているスカウトが多いと思います。進級するためにはね様々なターゲットバッジを取得しなければなりません。ですが、私にとって、バッジを集めることは「苦」ではありませんでした。もともと課目を達成していくことが好きだったからです。

私が一番最初に取ったターゲットバッジは「救護」でした。取れたきっかけは、たまたま自分が住んでいる地域でやっていた「防災訓練」に参加したことでした。その時に、包帯の巻き方やねんざなどの応急処置法ヲ教えてもらい、バッジの課目をクリアしました。「救護」を取得して以来、自分の知らない事が分かったり、色々な技能がバッジと共に集まってきたりするのが楽しくて楽しくて、夢中でバッジを取得していきました。気がついたら、中学1年生の秋には一級になっている程でした。

「菊章」を取ることは、やる気さえあれば誰にでもできます。だから、後輩スカ

ウトにも「菊章」を目指して頑張ってもらいたいです。だけど、指導者や先輩スカウト、親、今まで自分がお世話になったり、支えてきてくれた多くの人々がいてくれたから、今の自分はあるのです。私はたくさんの人への感謝の心を忘れずに、これからもスカウト活動を続けていこうと思います。

【富士章】

ベンチャースカウトに与えられる最高位の章です。高校生年代から20歳未満の青少年男女のスカウトに与えられます。



富士章を受章するためには、「文化」「奉仕」「環境」の3つのアワードと、「野営章」「炊事章」「救急章」「文化財保護章」「自動車章」の5つの技能章、および「宗教章」のすべての章を取得しなければなりません。まさに、これまでのボーイスカウト活動の集大成とも言えるものです。

富士章を取得したスカウトは富士章受章者と称され、年に一度東京で行われる富士章受章者顕彰に参加できます。また年に一度、代表スカウトによる東宮御所および首相官邸の表敬訪問も行われています。

【菊章】

ボーイスカウト(中学生年代)の最高位に位置するのが菊章です。取得は容易ではなく、受賞者は毎年スカウトの3~5%にとどまるといわれています。この章は、自隊の隊長が認定し、団委員長を通じて地区組織へ申請、面接を経たあと、県連盟より徽章が贈られます。



『震災が起こった時、避難所でどうする』 鎌倉福祉・教育ネットの勉強会で 講演と実技を行いました

9月10日、障害を持ったお子さんのグループ『かまくら福祉・教育ネット』の勉強会に招かれて、『震災が起こった時、避難所でどうする』というテーマで講演と実技を行いました。當麻団委員長の被災地での体験を通して感じたこと、自分の身は自分で守る——というお話に皆さん、真剣に聞き入っていました。

実技は高田ボーイ隊長の指導でダンボールを使っての工作です。これは避難所ですぐ出来る簡単な工作で、間仕切り、テーブルを作りました。普段は何気なく箱として使っているダンボールが意外な優れものであり、発想の転換で、寒さ対策、家具にも出来る事が分かり、皆さん楽しんで作っていました。



ボーイ隊は避難所生活を快適にする工作を披露

リーダー1名、ボーイスカウト3名、団委員3名の参加でしたが、スカウトは実技で腕を發揮したのはもちろん、お子さんたちと仲良く過ごし、ボーイスカウトのおきてにある、「誠実」「親切」「快活さ」を發揮できたと思います。

【団委員・吉川よし子】